

『みんなの笑顔のために』

命の大切さ

夏休み前集会そして夏休み明けの集会では、子供たちに「命の大切さ」について話をしました。ある一人の小学生の詩を紹介しました。この詩を書いた男の子は12歳でなくなりました。生まれたときから原発性免疫不全という病気があったのです。彼は骨の病気もあり、自由に歩いたり走ったりすることができませんでした。もっと自由にいろいろなことをしたい。そんな思いを素直に詩に書いています。それではその詩を紹介します。

僕のしたいこと 歩きたい 走りたい 学校に行きたい
 友だちといっぱい遊びたい おなかいっぱい食べたい
 元気になりたい 吉本見に行きたい 沖縄に行きたい
 今の僕にはしたいことが山ほどある
 あとどれだけ頑張ればできるようになるかな?
 だれか教えてほしい



大阪生まれで大阪育ちの彼は、こんな詩も残しています。

何で病気やねん 神様は生まれてくるとき 大切な贈り物をくれる
 ぼくには病気っていう大切な贈り物をくれた
 いやだった すごくいやだった
 そんなものはいらんと思って ものすごくつらかった ものすごくかなしかった
 でもちょっと考えてみた
 病気と闘っている間に たくさんの宝物を手に入れた
 思いやり 人の温かさ 命の大切さ 笑顔の大切さ 出会いの大切さ
 そんなたくさんの宝物を 僕はいつまでも 大切にしたい

この男の子は困難な病気と闘いながらも、「思いやりや人の温かさ、命、笑顔、出会い」を『宝物』と捉えています。そう思えたのは、きっと周りの友だちがやさしく、思いやりをもって接してくれたからだと考えています。周りのお友だちにたくさんの『笑顔や思いやりの宝物』を与えることができる菊水小学校の子供たちであってほしいと願っています。(参考文献:「相手の身になる練習」鎌田實 著 小学館)



教育実習生を紹介します。 北川 ほのか 先生です。

◆9月2日（金）から9月29日（木）の4週間、本校で実習されます。

◆クラスは6年2組を担当していただきます。



北川ほのか先生は、菊水中央小学校の卒業生で、現在は、筑紫女学園大学人間科学部初等教育・保育専攻の3年生です。先生は、小学生の頃から身体を動かすことが好きで、これまでにミニバスケットボールやバレーボール、硬式テニスなどを経験してきたそうです。そして現在、大学では、アルティメットフリスビー部に所属されているそうです。

このようにスポーツ大好きな先生と子供たちがはやく仲良くなつて、たくさんの思い出をつくってくれることを期待しています。